今の水準を保ち ずっと買い続けてもらえる米を 作り続けたいです

今年度の栽培を振り返って

「あきたこまち」と酒米、もち米を栽培しています。春先は管内で水不足などがありましたが、「あきたこまち」の圃場では作業が遅れることなく進みました。生育期には葉の色が美味しそうな色で、「これはいい米だ」という感覚がありましたね。「美味しい米」コンクールへの参加は4回目で、今までに入賞は複数回ありましたが、今回がはじめての最優秀賞となりました。

食味向上への施肥工夫

「らくだ君有機一発499」を、4年ほど前から使用しています。有機体が50%以上含まれた肥料で、田植えと同時に施肥しています。一発型の肥料なので1回の施肥で済み、作業の省力化に繋がるうえ、使用しはじめてから全体の食味が上がったと実感できています。比較的コストのかかる肥料ですので、自身の栽培規模や販売計画とのバランスを考慮することで、高品質米の安定生産に効果を発揮すると思いますよ。

高品質米生産への抱負

酒米は、管内で比較的栽培面積が少ない4品種を手がけており、なかには伸長性があって倒伏しやすいものもあります。数量よりも品質を重視することを心がけて取り組んでおり、手はかかりますが、酒米を作る苦労や経験が「あきたこまち」の栽培にも生きていると感じますね。自分で色選別機を保有することで、品質の安定管理にも繋げています。栽培コストと消費者ニーズのバランスを踏まえ、今の味の水準を保ちながら、ずっと買い続けてもらえるような「美味しい米」の作り方を継続していきたいと思っています。